

白神でガ1000種確認

弘大研究センター

南方系など新発見も 植生の豊かさ示す

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センターの中村剛之教授の研究グループは、2018年から行っている白神山地でのガの調査で、1000種のガを確認した。ガは植物の多様性を示す指標の一つとされており、白神山地の森林植生の豊かさを示す成果といえる。これまで見つけたガは250種ごとにブックレット「白神山地の蛾250」としてまとめており、今回新たに発行した第4弾も含め希望者に無料配布している。(西尾瑛)

白神山地で1000種類のガを確認した中村教授(左から)



ブックレット無料配布

ガの多くは、幼虫の時期に植物を食べて育つため、ガの多様性は植物の多様性をダイレクトに反映し、飛行性が高いため環境の変化に敏感に反応して分布を変えることが知られている。このことから同センターは、生物多様性と環境の変化を理解するため、18年から市民研究者と協力して調査を行ってきた。チョウよりも種類が桁違いに多いガは、愛好家や研究者が増えているという。

過去の調査において白神山地で記録されていたガは約600種といい、同センターは1000種の確認を大きな成果と捉えるほか、温暖化の影響と考えられる

1000種を確認し、第4弾が発行された「白神山地の蛾」



南方系の種の分布拡大を確認するなど新たな発見も多いという。新たに発行したブックレット第4弾では、色も模様も大きさもさまざまなガを掲載。中でも22年7月に県内で初めて確認された、羽を広げた大きさが13センチにもなる大型のガ「シンジュサウ」をはじめ、弘前市の工藤忠さんが発見した新種「クロヒロドスカシバ」などスカシバは各種掲載されている。

「ガにマイナスのイメージを持たずに見ると、すぐきれいだと思える」と中村教授。「過去の調査で見つかったガのなかで、わかれの調査でまだ確認できていないものもある。白神山地には少な

くとも2000種はいるのではないかと今後の調査に意欲を見せた。配布希望者は同センター(0172-33707、Eメール:hdhainaa@hiroa.ku-ni.ac.jp)へ、着払いで郵送を受けられる。

上記の画像は、当該ページに限って”陸奥新報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。